

番号	委員名	発言内容	対応方法
1	落合委員	高齢化が進行する東部地域で介護難民があふれ出るような状況になってきていることから、安心できる体制づくりが必要。	ヴィジョン1 ① 高齢者で検討します。
2	小柳委員	県営住宅の空き部屋対策として、若者に受け入れられるような改築などの住宅施策が必要。	ヴィジョン3 ② 住まいで検討します。
3	小柳委員	子ども達への郷土愛の育成、このまちを守る人材育成のための世代間の交流が必要。	ヴィジョン1 ③ 次世代で検討します。
4	小柳委員	外国人在住者が増加していることから多文化共生という視点も必要。	ヴィジョン1 ④ 多文化で検討します。
5	深堀委員	将来像、ヴィジョン、取組方針を示していただいたが、今現在、行政が進めている施策を紐づけて、それをブラッシュアップするとか、新しく取組を付け加えていくような議論をしていきたい。	小牧市の主な取組を資料に記載しました。
6	古池委員	人的資源を活かしながら、持続可能な集落、あるいは農業経営を実現するようなヴィジョンを描いたらどうかと思う。例えば、既存の休耕地などを活かして、就農にチャレンジしたい人を呼び込む施策などがいいのではないかと思う。	ヴィジョン2 ① 農業・商工業で検討します。
7	和田委員	ヴィジョンや取組方針に横串的なキーワードを付すことでもっとわかりやすくなると思う。例えば、農業や高齢者というキーワードを付してもいいと思う。	資料にそれぞれ対象・キーワードを記載しました。
8	横山委員	今後、公共私役割分担を明確にした方がよいと思う。市民で行うもの、行政が行うもの、市民・行政が協働でやるものなどを示すべきである。	「実施中の主な取組み」や「想定される取組の先進事例」に主体者を記載しました。
9	秦野委員	ヴィジョンや取組方針が網羅的なものとなっているので、ヴィジョンなどを横軸とした場合、福祉、環境、人づくりなどを縦軸に置き、マトリックスで考えていくとわかりやすくなると思う。	ヴィジョン内に対象・キーワードを記載しわかりやすく表現しました。
10	秦野委員	SDGs を強く打ち出すことや教育が重要なキーワードになると思う。	最終的にはSDGsのアイコンを取組方針ごとに記載する予定です。
11	中川委員	もっとも重要なのは企業誘致だと思う。	ヴィジョン2で検討します。

番号	委員名	発言内容	対応方法
12	原委員	市内の他地区に比べ、東部地域は、人口とまちの広さがアンバランスであり、それが特性であり、その辺りをいろんなアイデアの中に織り込んでおく必要があると思う。	東部地域の特性を活かした取組となるよう検討していきます。
13	田中委員	工業団地が2つあることは大きな資源であり、その企業も含めた産学官連携という視点は重要なことだと思う。	まちを育む体制において、産学官連携は必要不可欠と考えます。
14	三木委員	空き家になってしまう建物をいかに減らすかということと若者にどう住んでもらうかということ、この2つが大きなポイントだと思う。	ヴィジョン3 ② 住まい、③ 住民活動で検討します。
15	三木委員	若者を呼び込むために、外国人が多く住んでいることを活かし、多文化共生が進むまちであったり、このエリアは英語の勉強に力を入れているまちなど教育を頑張るまちというような取組や情報発信は必要。	ヴィジョン1 ④ 多文化で検討します。
16	和田委員	人を増やしていく時に、まちがウェルカムな状況というのは非常に重要になってくる。 まずは、まちのセールスポイントを発信しつつ、定住人口、移住人口ではなく、関係人口を増やしていくことが重要である。	ヴィジョン3 ③ 住民活動で検討します。
17	和田委員	まちのセールスポイント×移住、セールスポイント×関係人口、セールスポイント×教育みたいな形で広げていくといいと思う。すごくポテンシャルのある地域だと思う。	それぞれのヴィジョン、取組方針、取組の方向で施策間連携を意識した取組が必要だと考えています。
18	渡邊委員	車がないと行動しにくいということが人離れを加速させていると思う。特に池之内などの既存集落は小牧駅に行くにも、バスの乗り換えが発生している。	ヴィジョン1で検討します。
19	渡邊委員	少子化に伴う、小学校の統合や名古屋造形大学の跡地活用などで、大人の学校みたいなものをつくり、生涯通して学べるところや子どもが集まれる場所をつくるといいと思う。	ヴィジョン1及び、施策間連携において生涯学習についても検討します。

番号	委員名	発言内容	対応方法
20	藤村委員	既存集落の交通の便の改善が必要。私の息子が高校に通うのに小牧駅に行かなければいけないが、バスが1時間に1本という状況。駅まで自転車でいくにしても安全に通える道もない状況。交通の便の改善ができないのであれば、何か他の魅力があるまちでないといけないと思う。	ビジョン1で検討します。
21	蛸原委員	まちづくり5原則やビジョンなどが幅広く、まちづくりのイメージがしづらい。	対象やキーワードなどを記載しわかりやすくしました。
22	蛸原委員	東部地域は桃が有名であり、後継者不足などの課題もあるのであれば、そこに若者をぶつけるのもいいと思う。周りの経営者の中には、将来的にはみんな土いじりに戻るといわれる人もいる。それを考えると農業は、ポイントのひとつになると思う。	ビジョン2 ① 農業・商工業で検討します。
23	蛸原委員	テレワークが加速する現代、Wi-Fi一つあれば仕事ができる時代であり、農業とテレワークとかハイブリットな働き方は、若い世代にはとても生きてくると思う。	ビジョン1 ② 子育て世代で検討します。
24	大塚 職務代理	ビジョン3の取組方針3-②のアウトホームな雰囲気のあるまちの創出はもっと表現の仕方を検討する必要がある。基本的には新たな住民を呼び込むための取組ということであり、多様なライフスタイルを実現できる、まちの住民がウェルカムな状態であり、地域全体で応援していくようメッセージを取り入れたものにした方がよいと思う。	ビジョン3 ③ 住民活動 取組方針3-③の表現を ウェルカムなまちの 雰囲気の創出に 修正しました。
25	大塚 職務代理	委員からいろいろな意見が出ていたが、まちの将来像、ビジョン、取組方針はハード・ソフト関わらず幅広く表現しておく必要があると思う。具体的なことは取組の方向やアクションプランで示せばよく、将来的に幅広くしておかないと取組が実現できない。網羅的に書いておく方がよいと思う。	幅広い計画であるものの、 対象・キーワードなどを記載 しわかりやすくしました。
26	増田 会長	総合的に記載されているため、次回、取組の方向を記載する際は、ハード・ソフトととして何ができるか、実施主体は誰なのかなどわかるように記載できると良いと思う。	